

Re: おおぞね商店街

—子ども・仕事・資源がめぐりつながりあう商店街再生—

01 背景

< 商店街の衰退 >

大型商業施設の進出や消費行動の変化により、来街者の減少・空き店舗の増加などの課題を抱える。
商店街は地域の生活を支えてきた場でありながら、その役割を失いつつある。

< まちづくりにおけるSDGs >

近年はSDGsの理念のもと、地域循環型の経済や持続可能なまちづくりが求められており、商店街も単なる商業の場ではなく、人・仕事・暮らしを支える拠点としての再編が必要と考えられる。

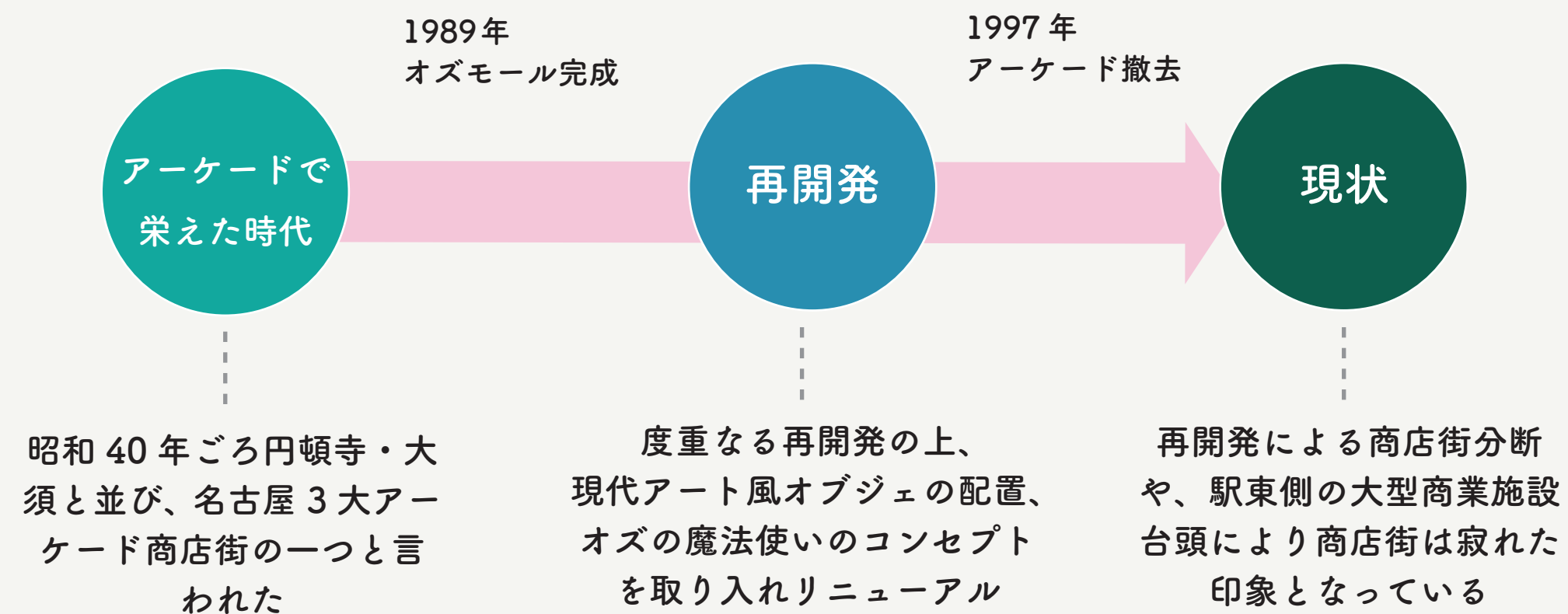


02 敷地：名古屋市大曽根

大曽根駅は愛知県で名古屋、金山に次ぐ総合駅（利用者数 約148,100人/日）
駅東側はイオンモール、パステリンドーム等で栄える
対照的に駅西側にある大曽根商店街・大曽根本通り商店街への人の流れは少ない



03 おおぞね商店街の歴史



※本設計において大曽根本通り商店街・大曽根商店街は、併せて「おおぞね商店街」とする。

04 おおぞね商店街の活動と課題

	大曽根商店街地域未来プロジェクト	つどいタウン (名古屋商店街オープン)	ガジガジウォーカーブルティー in大曽根商店街
主催	大曽根まちそだて会議	物件オーナー、商店街理事、借主、「ナゴヤ商店街オープン」の2021年度参加者	大曽根商店街)・大曽根本通商店街、講座 Poc up スクール NAGOYA
時期	構想計画/2023~2025年度	2023. 9~	2024. 11. 10
概要	身近な繋がりの場・新たなチャレンジを応援できる場としての商店街を目指す構想計画。	まちの人々の新たなつどいの場となる複合施設。 空きビルをリノベーション。	課題は「担い手不足」「賑わい喪失」「空き家問題」の3つとし、パブリックスペースを盛り上げ解放する。
良い点	商店街の今後の指針や目標を明確にしている	ビルリノベーションの地域の先駆けとなり、新たな集いの場を創出	パブリックスペースの活用、若い世代を対象にしたプロジェクトなど新しい試み
課題点	具体的な変化が表れていない	まだまだ商店街に活用されていない空きビルが多く存在	一日の単発イベントで持続性がない

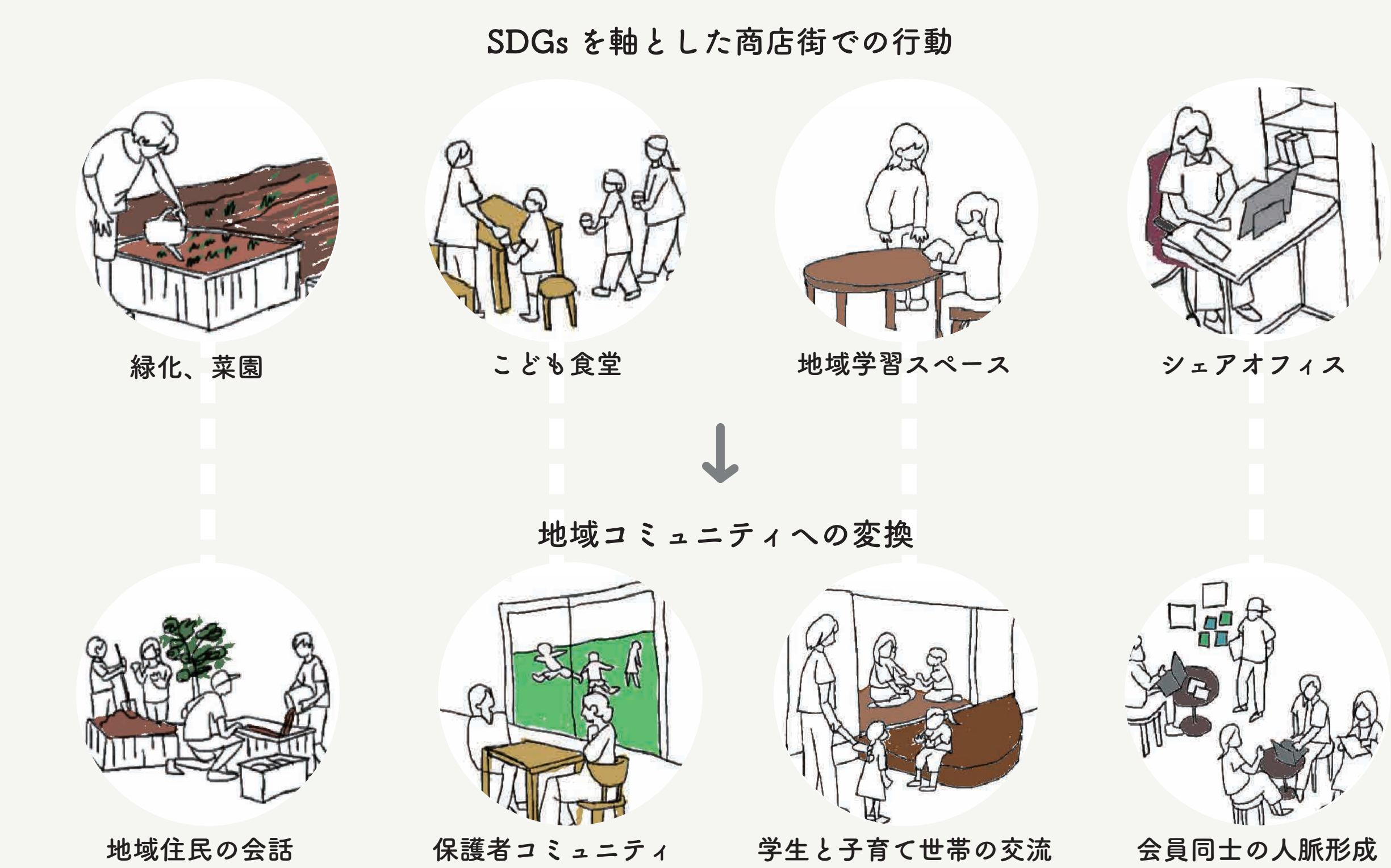
POINT

増加する空き店舗の十分な活用と、一過性の集客に留まらない持続的な振興

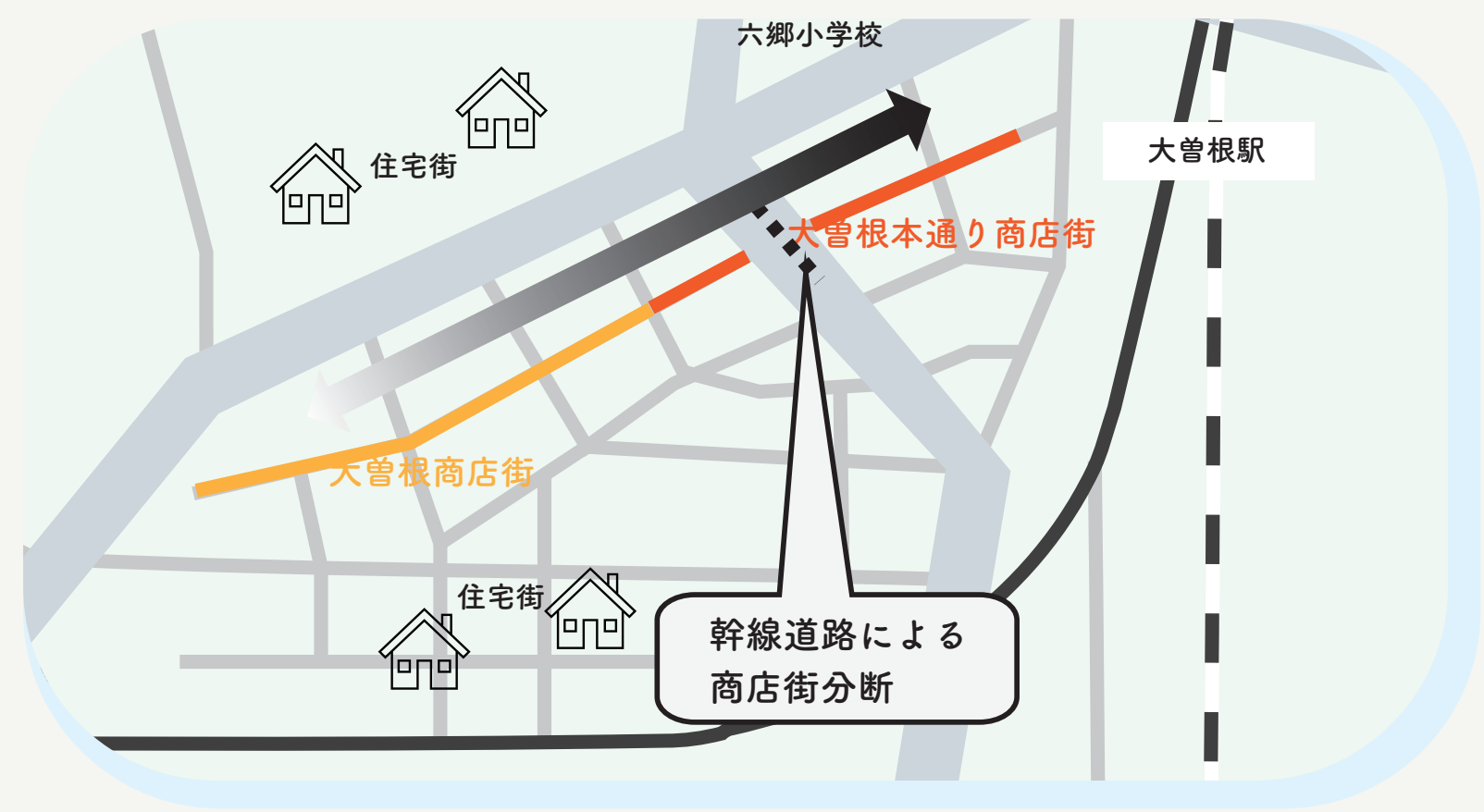
06 設計コンセプト

本計画では、商店街を一時的な賑わいをつくる場ではない、「人と事業が育ち、循環し、持続していく仕組みを内包した商店街」として、SDGsの理念を軸とした再構築を目指す。

物理的には分断された商店街を再接続することで駅と商店街を「つなぎ」、社会的には子ども・仕事・資源が「めぐりつながる」ことで、持続可能で活気ある商店街の在り方を提示する。



05 人流分析



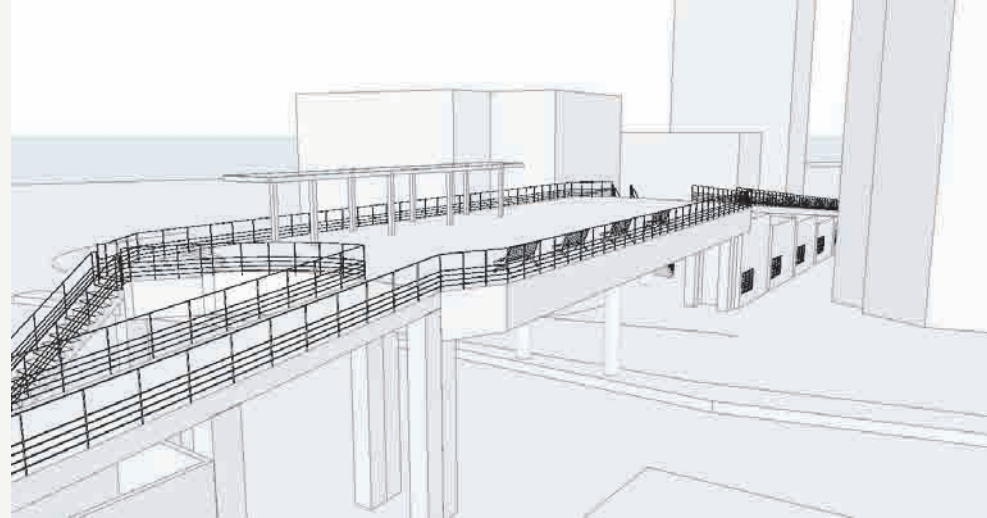
最寄りの大曽根駅からのアクセスは良好である一方、再開発の影響により**幹線道路が商店街を分断**し、その結果人の流れが十分に引き込まれず空き店舗の増加を招いている。また、周辺には小学校や住宅地があり、**子どもや子育て世代の日常動線と重なる**が、現状では滞在や交流を促す空間は少ない。



駅側から見た商店街の切れ目 シャッターの閉まる店が多く、（2023年時点で22店舗が空き店舗）空き地などと合わせて利用法を考える

1. ペDESTリアンデッキ


駅と商店街を結ぶ新たな動線となるペDESTリアンデッキは単なる通路ではなく、デッキ上では人が滞在し交流できる公共的空間、デッキ下空間には空き店舗と連続する形で企業支援機能を配置し、商店街の育成を立体的に構造する。



2. 空き店舗を活用した企業支援

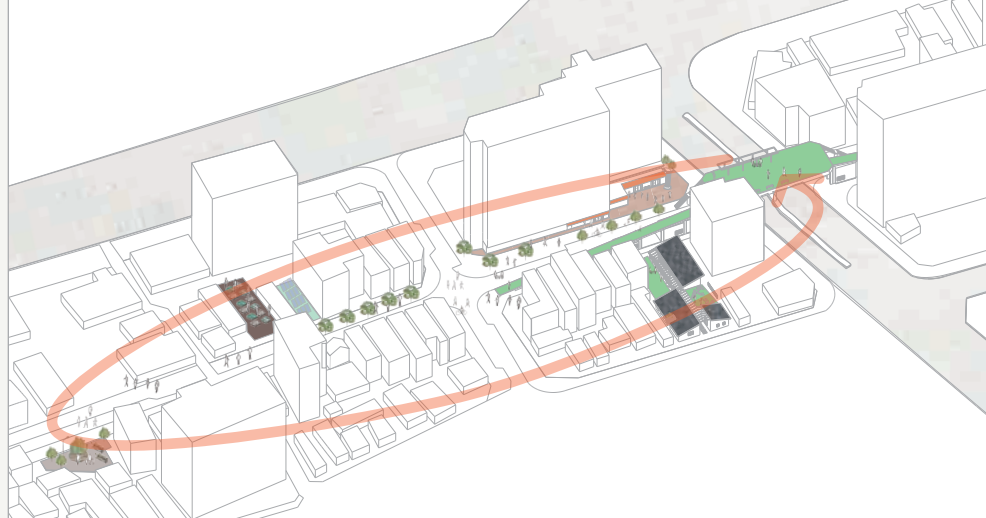
空き店舗を「チャレンジショップ」として再編し、起業初期の事業者が低リスクで出店できる環境を整える。段階的に規模や立地を変え、単なるテナントの集合体ではなく、人材と事業を育成するインキュベーションの場として機能する。

チャレンジショップ 自己店舗 商店街の担い手 →



3. 地域に開かれたまちと子育て支援

小学校や住宅がある立地特性を活かし、子ども食堂、学習支援、見守りスペースを配置。「買い物する場」から「日常的に居場所となる場」へと商店街の役割を拡張する。子育て世代の滞在は商店街全体の回遊性を高め、起業支援と相互に作用する関係を生み出す。



SDGs 17 の目標	アップサイクルステーション	チャレンジショップ・企業支援	子ども食堂・規格外野菜の販売	シェア菜園・発電	ペDESTリアンデッキ	学生シェアハウス・無料塾
1. 貧困をなくそう		○	○			
2. 飢餓をゼロに			○			
4. 質の高い教育をみんなに						○
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに			○	○		
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう		○			○	
11. 住み続けられるまちづくりを	○	○	○	○	○	○
12. つくる責任つかう責任	○					
15. 緑の豊かさを守ろう					○	

本設計で提案する施設と該当するSDGs17の目標

・・・地域コミュニティゾーン

・・・事業育成ゾーン

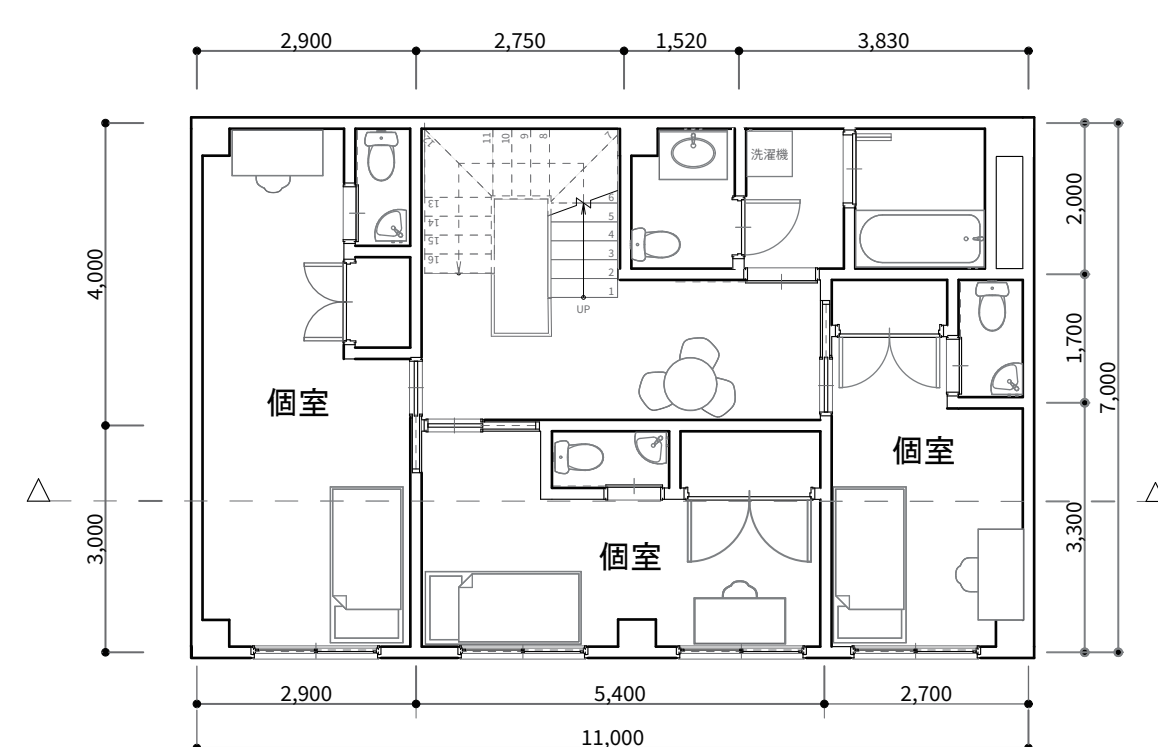
空き地▶▶▶市民用シェア菜園

1区画5平米ほどで道具や材料を貸し出し、
商店街の中で気軽に栽培ができる場とする。

ひろば▶▶▶グリーンレストスペース

もともと無骨なひろばとなっていた部分に緑やテーブル
を増やし、訪れた人が休憩しやすいスペースに。

B-学生シェアハウス／子ども塾



平面図2・3F 1:100

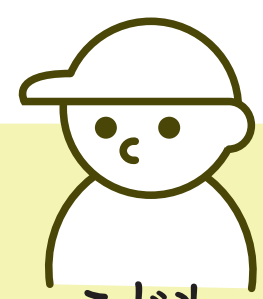
空きビルを大学生が住むシェアハウスに転用。1階は学生たちの共用キッチン・リビングスペース
かつ、地域の子どもたちの勉強スペースとなる。

▽それぞれの相乗効果



大学生

- ・地域交流がうまれる
- ・バイト以外の社会経験
を得る



子ども

- ・放課後の居場所
- ・塾に通えない子どもの
学習格差軽減



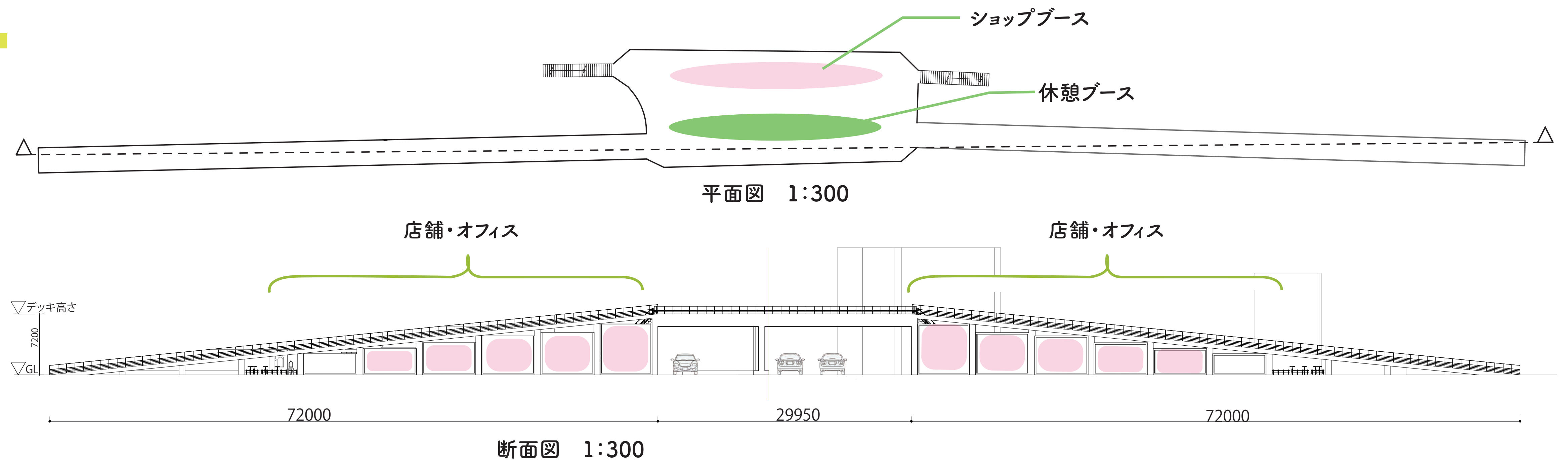
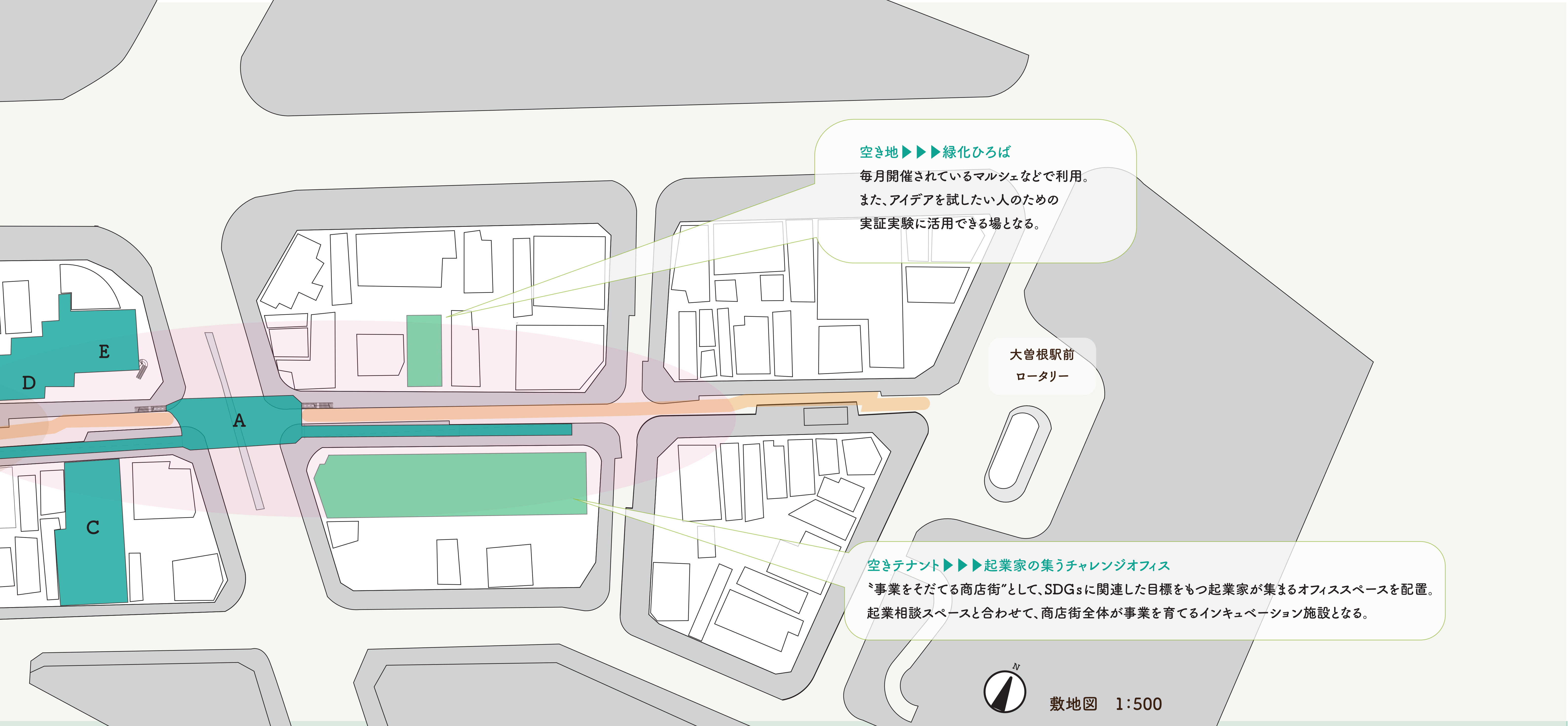
商店街

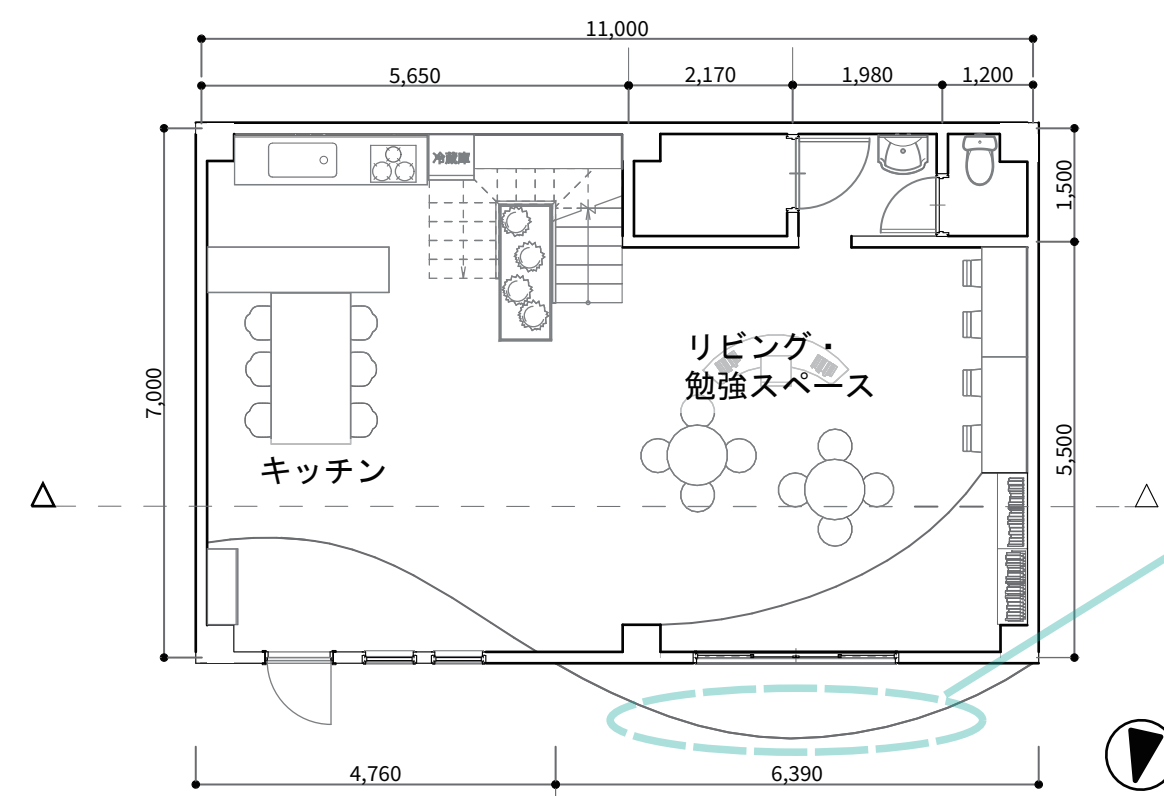
- ・子育て世帯や若者を
呼び込む

A- ペDESTリアンデッキ

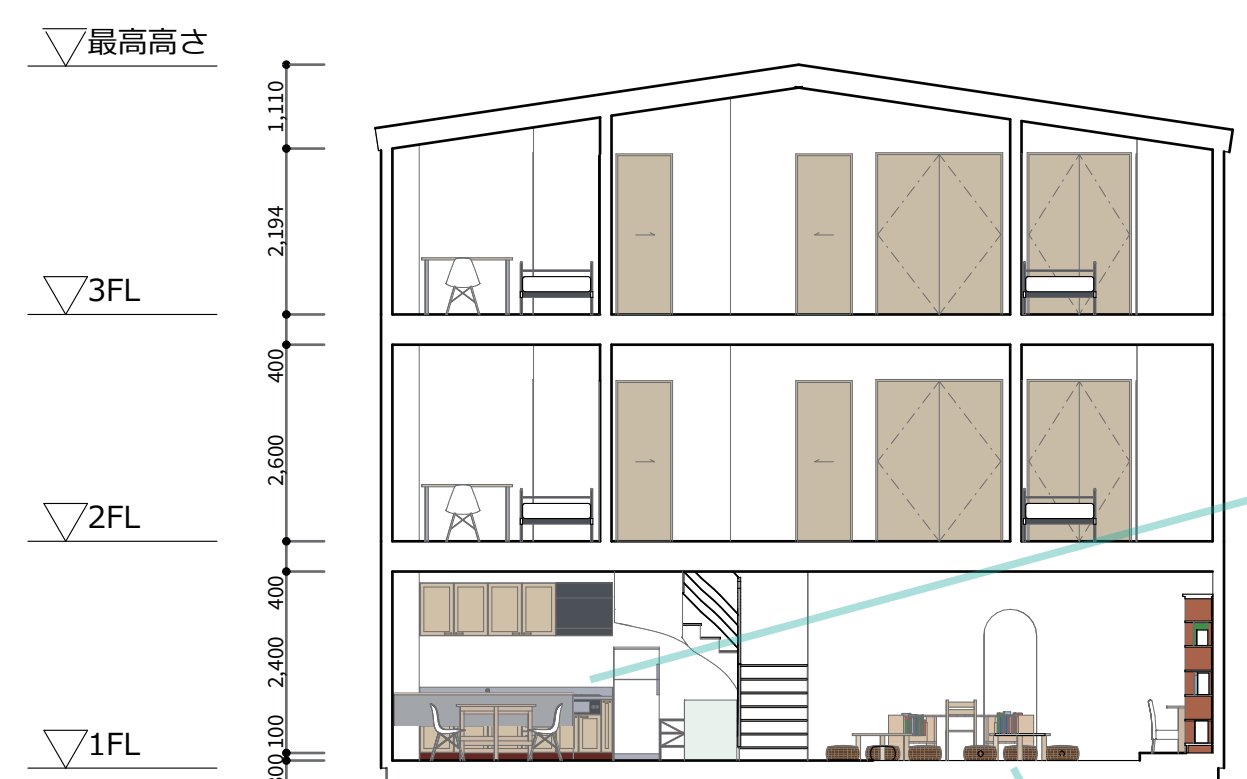
商店街をつなぐペDESTリアンデッキ上には、
北側にショップブースを配置。小さな貸しブー
スを作り日替わりマルシェなどが開ける会場
にする。また、デッキ下には中程度の店舗と
貸しオフィスを置き、月ごとの契約などでお試
し入居ができる区画とする。







平面図 1F 1:100



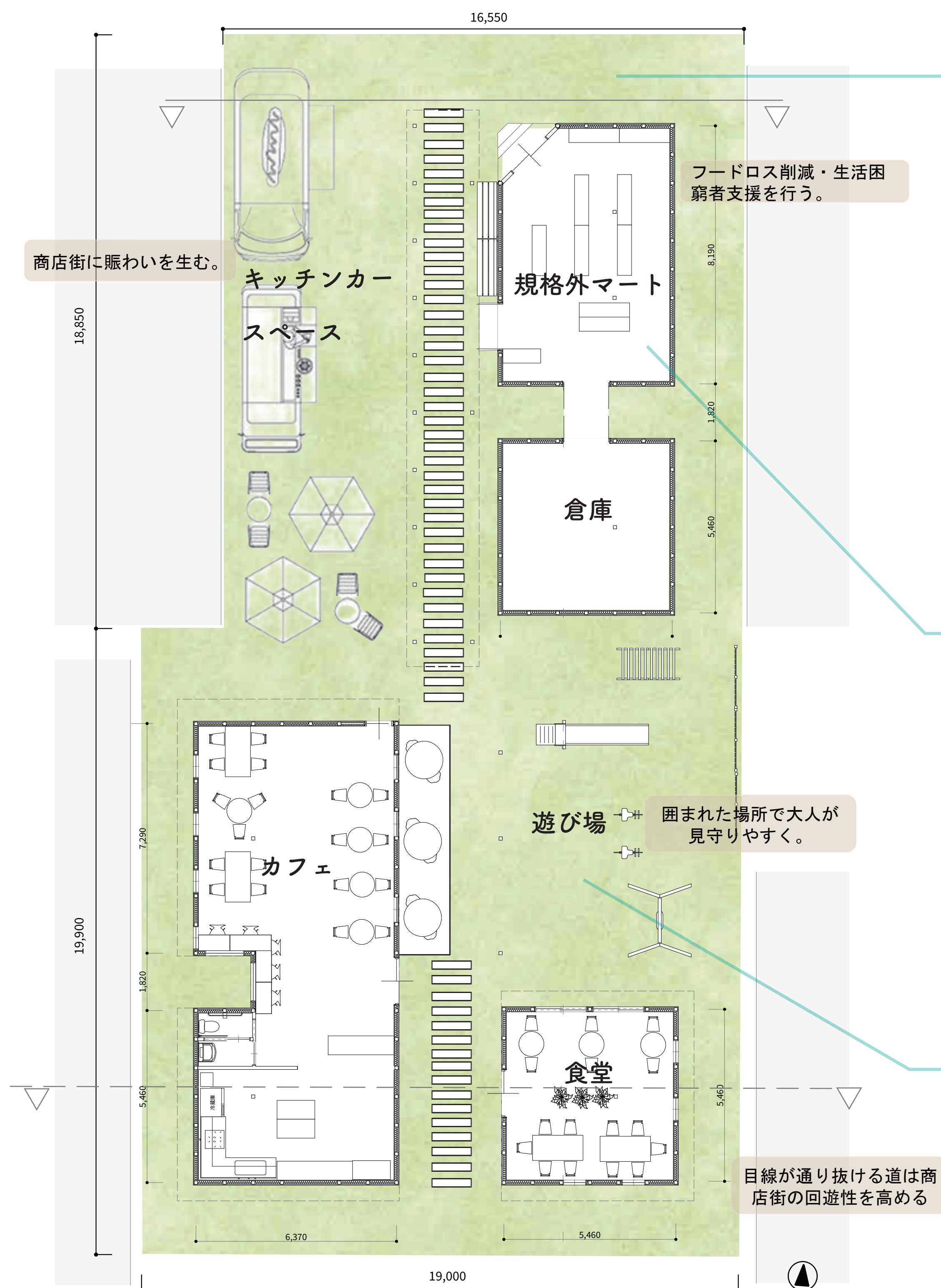
断面図 1:100



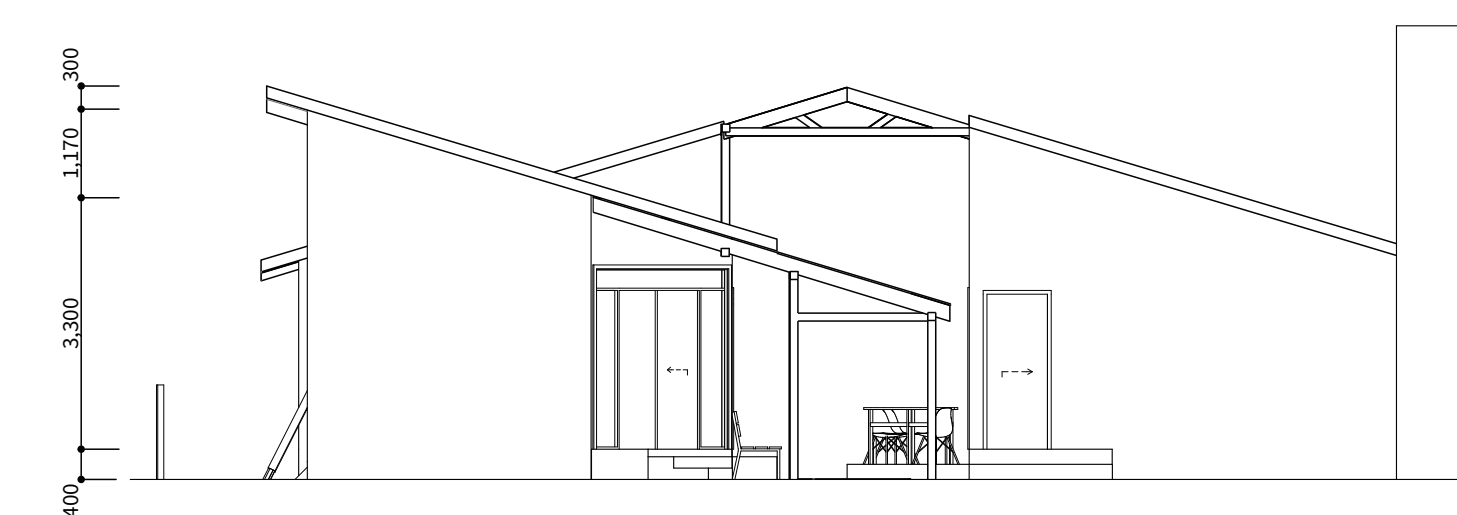
北立面図 1:100



C-こども食堂／規格外品マーケット

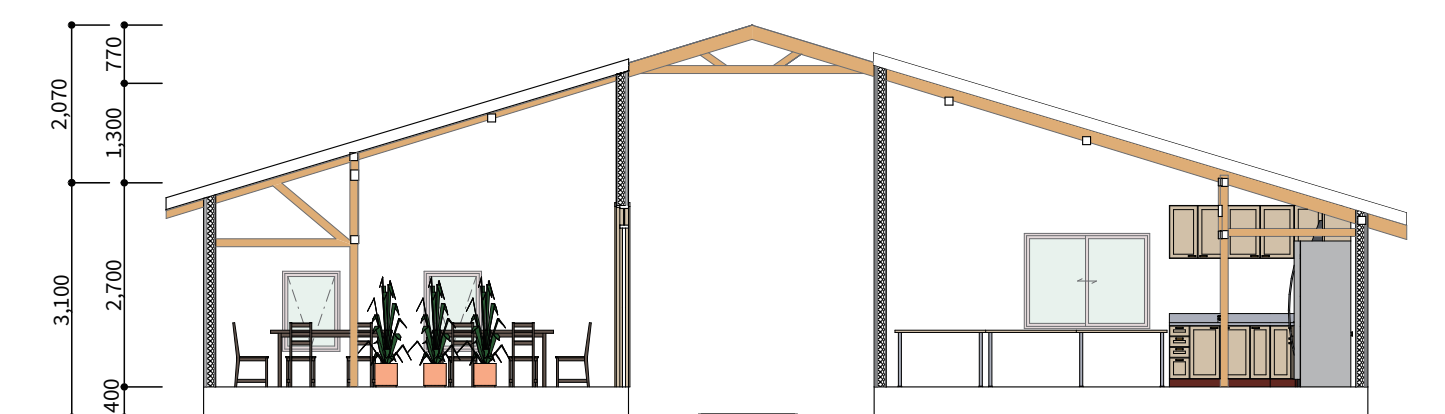


平面図 1:100



北立面図 1:100

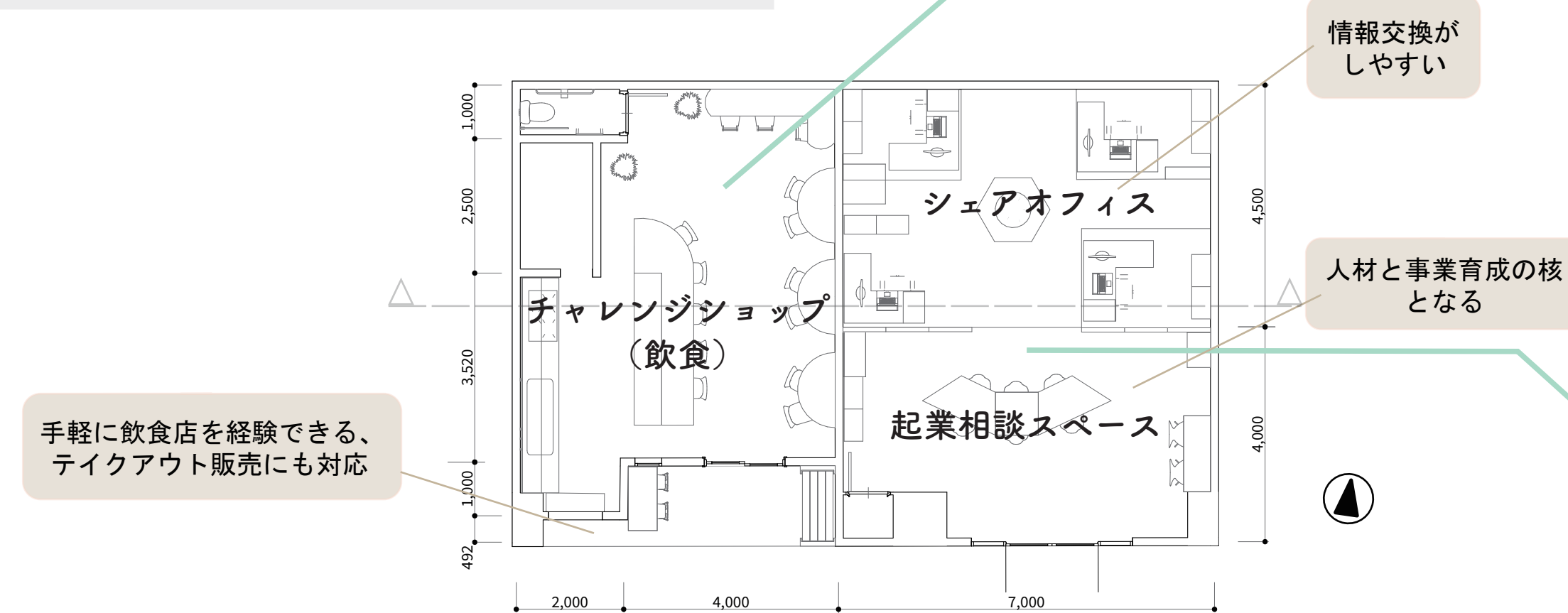
D-起業相談センター・シェアオフィス／E-アップサイクリステーション



断面図 1:100

D-チャレンジショップ・起業相談センター・シェアオフィス

起業初期の人が始めやすいショップ・オフィスのほか、
担い手の成長を促す相談スペースを配置。



E-アップサイクリステーション

商店街の「モノの循環拠点」。地域住民の日常に
資源の循環を取り入れる。

